

「ファッション×伝統」

ファッションクリエイション学科

辛 夢イン(シン・モイン)

【企画意図】

日本でファッションを学んでいる中国出身の私は、三年生の時に八王子染め工場に訪問し、映像を作成する中で、伝統文化や工芸は現代で続けられる可能性はとても大きなことに気づき、伝統を守ることの大切さを感じた。それで、自分の母国である中国の伝統服装チャイナドレスを紹介したく、現代ファッションとの組み合わせで中国伝統服装の美しさを伝える。

中国の伝統的な衣装のひとつであるチャイナドレスには、長い歴史と豊かな文化的意味合いがある。チャイナドレスは一種のドレスであると同時に、中国文化の象徴でもある。文化保護と継承のために、記録映画という形でチャイナドレスの製作過程と継承者の物語を記録し、展示することは大きな意義がある。

このドキュメンタリーを通して、伝統衣装であるチャイナドレスの製作過程とその背景にある文化的な意味合いを生き生きと示すとともに、チャイナドレスの文化を黙々と継承する職人たちの物語を記録し、広めていきたいと考えている。これは伝統文化を守り伝えるだけでなく、現代人が中国文化を理解し感じるための重要な手段でもある。

マウさんのお店は知り合いが行ったことあり、42年にもわたって手作りのチャイナドレスの職人なので、許可を得て取材させていただいた。

【制作での気づき】

自分自身をテーマにしたドキュメンタリーを作ることで、チャイナドレスは時として西洋文化や現代社会との複雑な関係を象徴するものとして描かれることがある。文化的、社会的、個人的な視点から再認識することができた。チャイナドレスが持つ感慨深い意味は、単なるファッションの変遷にとどまらず、女性の解放と社会的進歩の象徴である点にある。過去においては、女性の美しさや知性、独立を象徴する衣装として、そのデザインや着用の仕方に深い意味が込められていた。チャイナドレスは単なる衣服ではなく、文化的・社会的な背景を反映した深い意味を持つ、象徴的な存在であると言える。

また、セルフドキュメンタリーという形式で自分自身を表現することは、非常に強い自己表現の手段。映像やインタビュー、ナレーションを通じて、自分のアイデンティティを再確認し、視覚的な要素で自分の考えを表現する難しさと感じた。編集に入り、見る人が楽しめるため、1秒でも無駄なシーンがないように頑張っていた。

技術的な挑戦や感情的な難しさも伴い、映像編集やストーリーテリングに苦労したことで、新たな発見や理解があった。

全体的に、セルフドキュメンタリーの形の映像の制作は、自己との向き合い方や表現方法を

再考させる貴重な経験であった。

【フィードバック】

マウさんに映像をお見せしたら、とても素晴らしい作品だとコメントをいただきました。またこれからも中国伝統であるチャイナドレスの伝承に頑張っていきたいとおっしゃっていました。